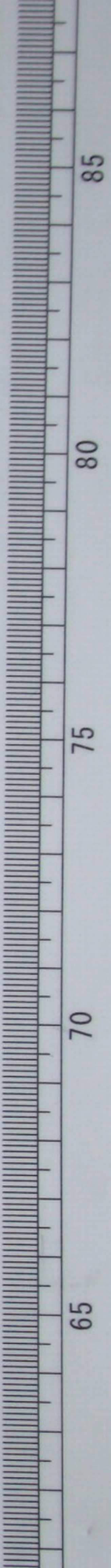


增補
繪鈔

和字功過自知錄

全

中 9
2512



門口仁
號 1512
英

和字功過自知錄敘

有客懷一編來出呈之。余且徵序曰：此書本袁了凡功過格。雲棲大師自知錄。依其條例。摘其切要。名曰功過自知錄。著以國字譯言者。欲令閭婦癡童易通曉。而受持信行也。余披閱之。視其立條分事。各品功過。絲善髮惡。舉而不措。戒惡勸善。循循然。誘人親切。乃感歎不輟。因謂功者。積善以成。功德也。過者。過惡也。其戒惡移善。也要在日記功過。月較多寡。而審己所行如何耳。過多心慚。則惡不忍為。功多情喜。則善

序

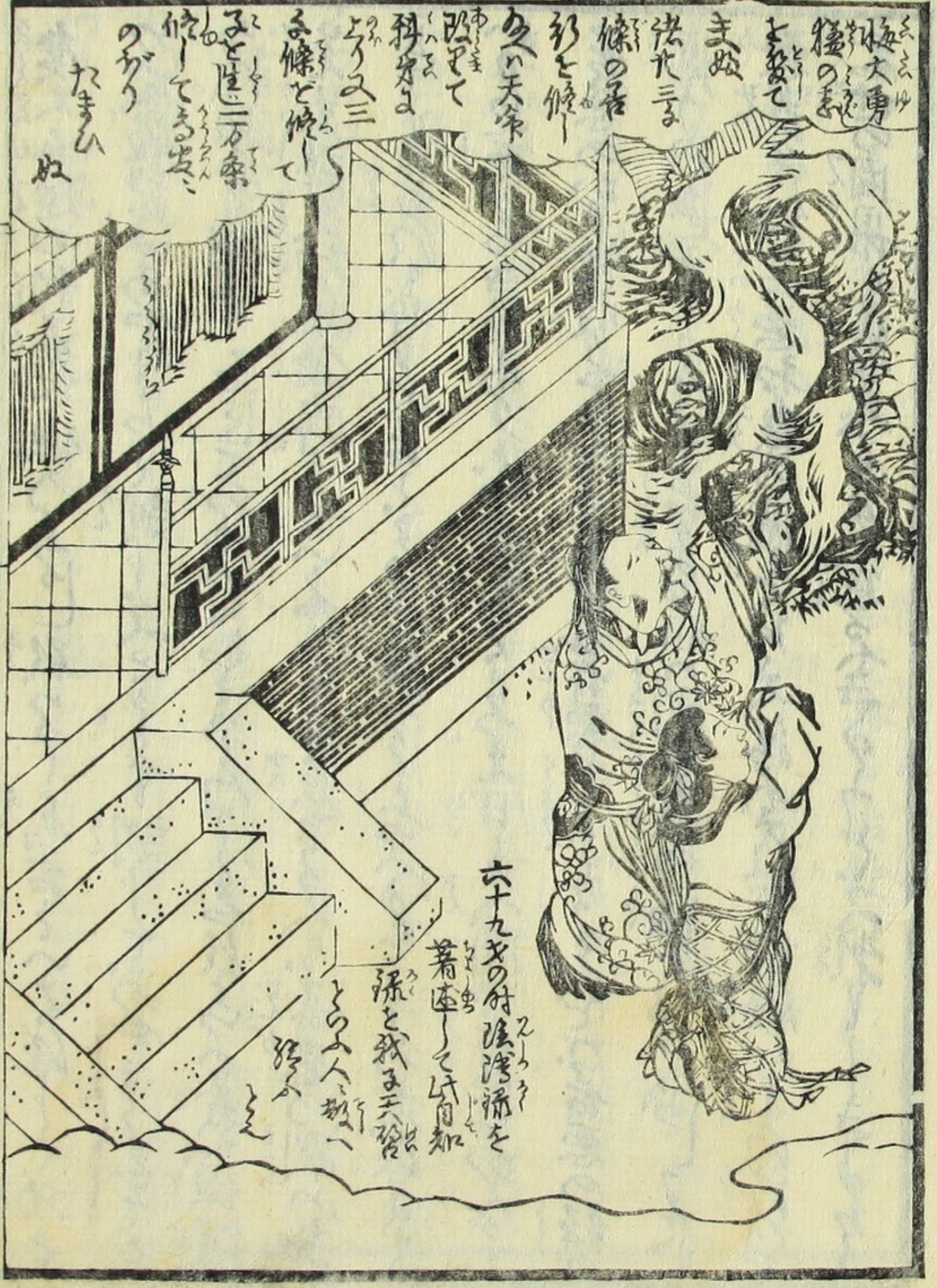
乙

不能不爲己所行日自知而自能成移皆由省身正
心發誠欲踐善行道者舍此復何求也其言云爲善
者獲福爲惡者罹禍是天之定理宜然也曾子曰出
乎爾者反乎爾者也孟子曰禍福無不自己求者則
善惡己之所出而禍福反得于己也則無非自求而
得之矣由是觀之爲人除害救患者己遭凶孽育生
戒殺者享福祥也世之求富貴利達者亦不由是道
何以得志乎今也人知取之爲取而不知與之爲取
也且不悟貨悖而入者亦悖而出之理貪吝頑忍唯

貨財之營而鮮有恩恤也儻此書得博行于世而人
人受持信修孜孜日化家以及鄉延達邦國則廉恥
之風興而謙讓之道立富者知足而窮者安生國無
偷盜而民德歸厚雖姦邪殘賊之人亦有恥且格焉
嗚乎其功偉然不亦大乎余嘉慕之問其述者姓名
不顯言之蓋此紀藩世祿達官之士而今既致仕其
爲人也遜謙不好聲聞資性慈惠常散財布恩以周
人之急因思吾財也有限而乏者也無限以有限隨
無限難也已不若使人遇惡修善避禍致福自享天



南嶽の棲霞寺に
 て雲谷禪師と訪ふ
 夕あり三日三夜
 法門を尋るる身
 雲谷後師奉
 のまこと候き
 善拙皆我の情
 天令も又已らう
 定まらざるまゝと
 激勵あひけり
 秘と授けり
 表了ん
 教と字て
 忽ち表と
 翻り
 道と



海大勇
 極の
 と候て
 主ぬ
 法水三
 條の音
 彩と候
 久の天
 改て
 科分よ
 三
 條と候て
 子と臣二
 候して
 のかり
 たまひ
 ぬ

六十九の行法流涌を
 著述して候知
 深と我子天
 の人教へ

○善道をまゝ一人と利益と一善 ○一方を利益に 十善

○天下と利益と 十善 ○天下後世を利益と 百善

○國王の汚控をまゝりそむりて 一善

○九一切のゆゑ善家はして欺くゆゑきい 一善

○師匠より長下る人小長久うやまふ 一日 一善

○師のふれをへとまゝりてそむりて 一善

○兄とやまひ父と愛と一善 ○異父母の兄弟の二善

仁慈類

○おのれを救ふ一人

○おのれを病を一人 薬をかどく人の一服 一善

○女縁の病人を治さうなり半一善いをうけ 二人 二十善

但し禮物をうけぬ善より

○記罪より者へのちをさう一人 百善 ○上を教人一人 一命

○杖刑をさう一人 百善 ○答刑をさう一人 一善

但しまゝいとさうの禮物さうさうの善より

○義理のきうさうなり私よかるい善のわし

○子と溺らうんとおとんと救ひ申さう 一命 百善

○子をさうさんとしるんをいりてさう 一命 半善

○葉子に本なり 一命 百善 ○胎子をゆらげをさう一人 百善

○牛馬等のふれをさうけり命をさう一人 二十善

○猪豚雁を食むる人の命を奪ふるの命を奪ふる一命
十善

○魚雀乃たぐひちいさきもの命を奪ふ一命
一善

○細なる魚鱗鱗皮脱つるの格微の命を奪ふ一命
十善

一切の吾根の物を命を奪ふよりよきと成し救ふと成
ててよき一。人の殺と成と成すべし禁制と成と成す
ちいさき命と成と成す若き一と押のひのりもちい
さき命を奪ふいさき命を奪ふいさき命のい押の
か後をいさかちて物とありんむ心さき救ふ若
あつたさきとあつたを押しまはさきと成と成す
ハ押くれと成と成す微命を奪ふはド若きなり

○鹿鹿などの物も害あるもの命を奪ふ一命
一善

○蛇虫などを咬むの殺さき罪は「鼠」の害と成す
命を奪ふは罪あり

○祭ふるまひいふに此加例は生殺をとりて殺と成す
市は賞りも成ておつと成す

○獵師狩人殺生をとりて命を奪ふは罪あり
と成す

○過を悔かかちて改めざるは罪あり
一善

○はくされ人殺生は禁断せしむ一日
十善

○家のあるをいふと牛馬などの死せる命を奪ふは罪あり
大命十善 小命五善 佛を殺すと成と成す一命
九

一 老くまらぐ。初ぶらうして又らまき者熱どてたのむる
 きんさんまうれ人をとらふ百積 ○まがりのやごこりも
 積りて百積 ○米麦布本綿の類上は絹は二倍月
 ○お旗中をそとらまじきと周 友ごら乃患難と
 たまけら我あにえく出全る者又やごこり
 ○このおとら困窮れ人とほきゆりまらふ一日
 人の憂はるは目をまらくいひあぐとも 一書
 凶事又米の虫後よる利とく代賣 山百積
 鱈うろ 人をとらふ一食 ○煩濁いせれ 人又湯菜とよふ十飲
 ○おらえは人をあうめ三宿 一書 ○綿入一書 一書

かどとら二書 ○やとの後よてうらん両松 不どとら一書
 ○雨ふらふはまぐを不どとら一書
 ちりけとら どの具食を不どとら二食
 一かしたる金銀とゆる百積
 ○年く利息と美はふとほく其人あがたことまらた月じ
 かにたをどらまやうしてゆると二百積
 細うつこ一願 ひたれも一書 湯ありてせひさくゆるん
 小若み一書 何らじ
 一 後よとまらる人まらふ一書 人半馬等の腹くじむとゆじ
 我の代りて息む一書 一書

一 葬礼をせむとらうらうらき人ぬかこに 百錢

一 捨る人の骨を葬る 一人 ○ 捨る死骸を葬る 一人

○ 墓のなまき人よ墓地をわきて葬らう 一人

但 奉奠をとらう 三人

○ 旧跡の古傍で再奠し或は法界の塔を建る 入用 百錢

一 かけもちらざらもちらざら成法なりて継承の 中をたす

以て入用 百錢 ○ 承のたすけ 如 酒池舟戸と扱や と

不承 と 継承の扱をうけ 後 船をたぐる 甲

但 債銭と名りの ち 若にあり に

一 上官ぬけ 申 職も 乃 をあわれむ 一人

○ 遺らありとも 情 よ ら けれ と 其 後 後 と 全 勤 心 十

但 結縁 ら う ら ぬ と 若 み あり に ○ 元 上 人

下 を 名 の ぎ 虐 ざ ら 日 ト 若 ん

一 氏 と 名 を 承 り 子 を 承 り 唯 そ こ を 承 り 恐 る べ し

一 妾 を 承 り 妻 を 承 り ○ 日 ト 嫁 入 入 と 承 り 入 用 百

○ 養 え る 男 女 を 以 て 其 代 銀 と 承 り 元 銀 百

○ こん き う れ 人 を 承 り 養 と 承 り 金 銀 を 承 り 承 り

久 し 日 ト

但施物を受るものも若くは

○自分れおるせば經一卷佛名も五礼百拜一書

○至君父母乃法界衆生のる齋と設け佛と百後

○壇に登り法と施と一書但施物を受る百後

○世間の災難のる夜摩と掛く等の祀と百後

一 大乘の經律論と講譯と一書徳衆一書 人殺多く百後

○二乗ゆい人天の書徳衆一書 人殺きも百後

但・禮物を受る一書のたれに一書若くは

正法を説ふに一書徳衆一書

僧來りて食を乞ふ一書徳衆一書

○け方より拓きて一書二僧

○供養を寺へ運び一書送る一僧

○信心一書僧侶拓一書敬一書いと一書供養せば一僧

但再三の礼一書とて一書授一書あ一書る一書若くは一書

一 僧衆をせ一書一人 但一書若くは一書僧一書若くは一書

一 佛の慧命一書とほ一書善一書く衆生と利一書華一書と一書海一書を一書

○義を一書守一書ふ一書子一書の一書

○但義一書とあ一書き一書若くは一書但一書若くは一書守一書る一書若くは一書

雜書類

一 若くは一書きた一書る一書潔一書白一書と一書若くは一書若くは一書

一 くだき物をりしつて百後 ○園翁の身分なつて三 百後
 一 男女の色事いづれにる守つてそまき百 百後
 一 人よかりたる物物来乃ち返して時日と過さ一 百後
 一 人よ代りて借金いはくかひ入一 百後
 一 山林田地をゆづる徳をゆづり何徳分一 百後
 一 家業のゆめいやくよくはく妻まをまきび一 百後
 一 争一 争一 ○内のし下女小若まを心をはけけよくあり
 一 ことわうといくしくこといに膜をたくまくびと
 一 くとがてんのゆくやういくいびをく心乃よくさ
 一 争うみらびく 一 争

一 人をとくめ令根と出させ若根功德をさしむは
 一 者若百後 但己が名実に付けもわらい若いありは
 一 命又ゆふ訟をわらさむ 十 争論又和睦乃
 一 挨拶をとは 一 但礼物を交るい若にありは
 一 至徳のことばを出し
 一 但揚震が天知る地知る我知る汝知る法知る法 観乃
 一 人の若事を見て我もまらんは 一 若
 ○ 過と知りて改む 一 争
 一 評議談合の席をて自分の了簡を云ひつつのはる
 一 理乃とありきんさりよ 一 争

一よき人をあげ用也十善 ○一人とをい退く一人

○人の善んやとむ一人 ○人の過をばらば人の悪

をいば一人 ○人の悪をいひふりものをとむ一人

一りやくに賢者の人をうやまひ供養する一人

○よれ人とらふより毀るととむ一人

○人を諫して悪心を善心みびめ一人

一人の家業を成就せしむ十善 ○一人の学業を成就

せしむ二十善 ○一人の徳業を成就せしむ三十善

一友がらに義を守りて心よゆせと人の知れども愛せしむ十善

但季れが劍を拵上よめける歎かたり

○約束せしむと堅く愛せば身命にひて義と守る百

○義理あはれを身託られず於又何十年たると

も義とわてまひり。物事を真うとくと百強

一恩とらけていよと致しむたう。必とらむ一人

○恩を報はよ受ふるかどよういととむ十善

○うらむとあはれむむくつ一人

但心なれあはれして私の悪を報するの善にあはれ

一綴りまねとかりたる衣服を着る二善 ○齋服一善

但月よりお祭の衣服をきかよきぬの善にあはれ

○まじりてお祭の求むるにあらぬものも若ぬらむ

一肉食とる人食を減者せば一食

○常潔母の人食を減者せば二食

但食よりを希と力かりて減せざるはあり

一穀とる其肉をくれば一書 ○穀とを食て不食一書

○我を御食應たれに穀を瓜とめて不食一書

一人より益理なる事とつけてよくめん少ん事一書

一押らぬる物をいろいろに代物百種

一過も我よりけ功を人みゆ一書

一去あいせらぶれも悪きも我分限みやとんと天う
まうせくむとがら一書

一若人のさあみたるをたむをかりて我よりせざる

一のいほ不の地一書

一我財産の多きも人のまんぶを食せり一書

一利をばしむいほくくの患難よあよと天と怒る人

とがめばしてまがひ一書

一いけみえをころと等の悪き願ひをくむ一書

一な身命と保者とする書物と修一書 ○病と救小薬法一書

一他・禮物を受取る一書 一と海とくたさる一書

一文字の書する紙踏に抄してある紙捨ひてほと紙換一書

○金銀あり威勢ある人はよくみれば其勢いを見れば儉
約と守りて分みやとんじり者十善

一 權柄威勢はくべきみつる十善

一人より悪報とさげけるは悪報と知つて外きりげ弁並三善

補遺

一人乃一命をとく百善

一 幼遺格を一人

○人をとめて幼遺格と一人

自知録上巻終

自知録下巻

過門

不忠孝類

古杭雲樓寺 殊宏 輯

一 父母を中かひて致り一善

○父母妻へり終ふ時押の一善

○か不はさく入十善

○父母の毫一善

○父母の十善

○父母のあやまらぬ府一善

一 繼父母 養父母 祖父母 舅姑等みはく一善

一 重人又つらとまことよき事 一過

○凍^{ひや}つきをへとめば小妻 一過 ちよ 十過 極大妻 又十過

一 國王の御法度^{ごほつた}をまりぬ 一過

一 師匠^{ししやう}をうやまりぬ 一過 ○師のよれをうへと用ひぬ 一過

○師よそむく 三十過

但・師匠^{ししやう}取道^{しよだう}ならば過みありぬ

一 兄弟^{あにがた}いりるをいへる事 一過 ○^{あにがた}無父母の兄弟^{あにがた}の兄弟^{あにがた}の兄弟^{あにがた} 一過

不仁慈類

一人の重病^{じゆうびやう}とくふべきと極りぬ 一過 ○怪^{あや}みやまひの一人 一過

但・重^{おも}き人^{ひと}のいふとくひがたれたまけいへる過みありぬ

一 毒藥^{どくやく}を調合^{てうがう}とせぬ者 一過 ○人を害^{がい}せんとせぬ者 十過

○人の一命^{ひと}と害^{がい}せぬ 百過 ○死^しにせぬ病^やむ 又十過

一 氷法^{ひやう}の志^しをきをとる 十過 ○^{あにがた}衆^{しゆ}の志^しをきをとる 一過

一 父母^{ふぼ}うまを弱^{よわ}めたりぬ 百過 ○^{あにがた}そらそをゆらぬ 一命 十過

一 妻^{さい}をほとくる人^{ひと}を志^しの難^{がた}と受けたり人のいひをきひの

なる事^{こと}をきひを知らぬ事^{こと}に死^し罪^{ざい}の 十過 ○杖刑^{さうけい}へ 八過

○笞刑^{ちけい}へ 七過 ○賄^{まへ}をうけて死^し罪^{ざい}者 百過

一 心中^{しんちゆう}よびそりた人をそこなひ害^{がい}せんと思^{おも}ふ 一過

○奉^{ほう}成就^{じゆうじゆ}せば 一人 十過

一 人をとらんと 一命 百過 ○病^{びやう}ついに死^しせぬ 十過

○人よころとせらる 日一

一牛馬等の人にまゝにほけもろをころとせらる 一命 二十造

○あやまりてころとせ 又造

○人よ蓋ふまけのころとせ 一命 十造 ○あやまりてころとせ 二造

○ちつたけのころとせ 一命 一造 ○あやまりてころとせ 十命 一造

○まぐく とらぬの 徹畜と殺 十命 一造 ○あやまりてころとせ 二十命 一造

○人にころとせ あつち

○人のころとせ あつち 日一 ○あつちの食物殺 日一

○けりめとせ あつち 日一 ○あつちのころとせ 日一

○非とまる あつち 日一 ○薬餌に殺 日一

○殺を中 あつち 日一 ○殺と日一

一 龍 あつち 日一

○あやまりてころとせ 十命 一造

一人の殺 あつち 日一

但 あつち 日一

○止む あつち 日一

一 人 あつち 日一

一 命 あつち 日一

一 命 あつち 日一

○いそ あつち 日一

○人の妻をとりて日一

一 妻を人よりとりて物を強く得て其人衆人をかりて日一

○人より及び牛馬をゆひつらひくふとて廢さす日一

○人より及び牛馬をゆひつらひくふとて廢さす日一

一 人を扱あびき人乃背をとつ日一

○人の位をとりて日一

○權威をとりて人の田地を賣す日一

○日一強て下を賣す日一

一 ことりるを換て人牛馬の継承とて日一

○橋渡船并戸人の中よりとて日一

○この後人よりとりて後人の出世のる日一

○法をまげぬ道をひて出世とて日一

一 ことりあは人より日一

一 婢妾といふ處をやら日一

○人の妻女みだ義をゆひ日一

三寶照業類

一 佛がさ門のる像瓜そこたひやぶらばはるる不 百後二造

○ 诸天若神聖賢若多著の像ははるる不 百後一造

但 邪法邪神なるは造はあは

一 佛がさ門羅漢をぞしる 一言二造 ○ 诸天聖賢等 一言一造

他人のまよひととくを實を滋より出るは造はあは

佛を礼と供り時をりする 一造

但 病者によう又いふき用るは造はあは

○ 媼酒等のあに時とりしかり 二造

○ 六齋日ハ一修瓜 二造

但 六日日もあはるる在家の者の情むべき日たる加ふ

かくれおとく論ど八日十四日十五日廿三日廿九日卅日

小の月かりん廿八日を加ふ

一 寺院寺塔瓜をとも佛具法器等とそこらひやぶら

いあはるる不 百後一造 ○ そこかりやぶら者を見らるる凍め

とめ 又造 ○ 又いふははるる 十造

诸天若神の中は海等のはるる不 二百後一造

但 邪神淫祠の世の人とまどりは若は造はあは

一 三堂井池瓜賣らばあはるる不 百後一造 ○ 寺院の建物を賣ら

一 經をそとらひやぶら 百後二造 ○ 二乘人天の論 百後一造



一 佛經をそしめる一三 ○人天の書物も一三

一 法を抄んでをへど十三 但彼抄ゆるは是なるいあらん

○若法のまやまじしてひはましくぬやうにを十三

但邪に又誤する謬なりは違ふらじ ○若法をい

ふくはむき附はらして時をまじひ止まるは違ふら

一 誦經一字よけたぐみ一三 ○一字よ抄らん一三

○心よ余のまじを抄らん十三 ○悪を抄らん十三

○經をよむが外のをを十三 ○若のと信るも十三

○法式ようにたらざりて無量にして誦十三

○誦時眩暈を抄らん十三 ○人を志する十三

○人を抄十三

一 佛經を片々著さば一巻

法と説よこ見識は但せ祖師先賢の心は疑は無十三

らひ文を中り教をそのの書物と違ふ一篇

一 軌を片々等の邪法或は抄りし業をくつる悪方を

人み佛よるも一巻

一 在家に僧の食を乞ふは乞ふと一三

但ちかくしては乞ふは乞ふとみはくは

○食あえとてが(け)くまうを乞ふ十三

但出家するもの遣み一倍はくは

一 要子子をまひ遣出さん一人 ○ 子子遣あれども教へ
いまーうんぶ一 大る十

○ 雜不若報

○ 死まじき金銀とどる百錢 ○ 面髪は身とて百錢
一 志ん志んと交合し一尼を犯し身持をかうく二 婦と
くをた押く八十 ○ 意みおひ十
○ よきおぐりの娘をかうん四十 ○ 意よおひ一
○ 石けり女十 ○ 怪女一
但子子のいへどの遣いらくに論どる限りみあり

○ 出家の身くしてぐは不義行の親疎貴賤を

論せむ八十 ○ 意よ思ふ十

一 遊郎遊女等のぐれらるれ一人 の者どくへをく一

財寶を盗む一針一草一錢より一 遣とん

○ 後人どくはし一 奉貢をうとらぬとむ百錢

○ 權威をひて押ぐ一 て欺十 して百

○ 結成らけて人をまひ一 志ん志んをせ人の罪をゆる百

○ 結どらけく人の官を押し一 志ん志ん入る十

○ ひこの金銀とらうて一 志ん志ん百

○ 地の金銀をうりて一 志ん志んを十

一 升穉等（百後）うけく出しおし入代物（百後）

○よれた人をとりつけむ（十道） ○うつて後（十道）と申（十道）

○悪とんく其（十道）不（十道）成（十道）を（十道）ら（十道）ん（十道） ○五（十道）て（十道）助（十道）と（十道）ん（十道）

○人の言（十道）成（十道）く（十道）と（十道）一（十道）事（十道） ○人の悪（十道）を（十道）あ（十道）ら（十道）ん（十道）

他止（十道）め（十道）と（十道）ね（十道）ど（十道）對（十道）立（十道）及（十道）ひ（十道）る（十道）理（十道）の（十道）強（十道）く（十道）不（十道）成（十道）中（十道）に（十道）お（十道）も（十道）取（十道）り（十道）と（十道）も（十道）違（十道）ふ（十道）あ（十道）ら（十道）ん（十道） ○害（十道）を（十道）の（十道）ぞ（十道）り（十道）人（十道）と

とくふたぢよ（十道）り（十道）い（十道）て（十道）違（十道）ふ（十道）ゆ（十道）へ（十道）

いふへの賢者（十道）のあやま（十道）つ（十道）を（十道）ど（十道）が（十道）し（十道）求（十道）めて（十道）新（十道）説（十道）と（十道）は（十道）く

ら（十道）ば（十道）一（十道）言（十道） ○理（十道）に（十道）そ（十道）む（十道）き（十道）た（十道）ら（十道）う（十道）ら（十道）一（十道）言（十道） ○芝（十道）双（十道）紙（十道）粒（十道）款（十道）など

を造（十道）り（十道）て（十道）吾（十道）人（十道）を（十道）つ（十道）り（十道）ま（十道）り（十道）と（十道）一（十道）言（十道） ○一（十道）言（十道） ○三（十道）言（十道）

○人の密（十道）を（十道）き（十道）き（十道）つ（十道）つ（十道）を（十道）実（十道）を（十道）成（十道）る（十道）れ（十道）さ（十道）ん（十道）ま（十道）ひ（十道）あ（十道）ら（十道）ん（十道）者（十道）一（十道）言（十道）

○全く（十道）憂（十道）き（十道）つ（十道）つ（十道）と（十道）は（十道）安（十道）み（十道）握（十道）り（十道）如（十道）と（十道）一（十道）言（十道）

○人の悪（十道）の（十道）を（十道）書（十道）き（十道）つ（十道）つ（十道）と（十道）は（十道）希（十道）と（十道）し（十道）其（十道）来（十道）は（十道）実（十道）は（十道）虚（十道）

わ（十道）ら（十道）ん（十道）ハ（十道）二（十道）十（十道）三（十道） ○全く（十道）虚（十道）を（十道）ら（十道）ん（十道）ハ（十道）一（十道）言（十道）

但（十道）二（十道）言（十道）も（十道）安（十道）言（十道）と（十道）く（十道）云（十道）の（十道）心（十道）よ（十道）り（十道）出（十道）て（十道）人（十道）の（十道）害（十道）を（十道）除（十道）く

る（十道）や（十道）ら（十道）ん（十道）ハ（十道）違（十道）ふ（十道）あ（十道）ら（十道）ん（十道）

一 種（十道）の（十道）功（十道）徳（十道）の（十道）よ（十道）り（十道）を（十道）勅（十道）め（十道）た（十道）る（十道）令（十道）根（十道）と（十道）私（十道）用（十道）を（十道）一（十道）言（十道）

○三（十道）宝（十道）の（十道）物（十道）一（十道）言（十道） ○た（十道）と（十道）い（十道）若（十道）ふ（十道）に（十道）は（十道）く（十道）と（十道）も（十道）旋（十道）る（十道）の（十道）志（十道）は（十道）

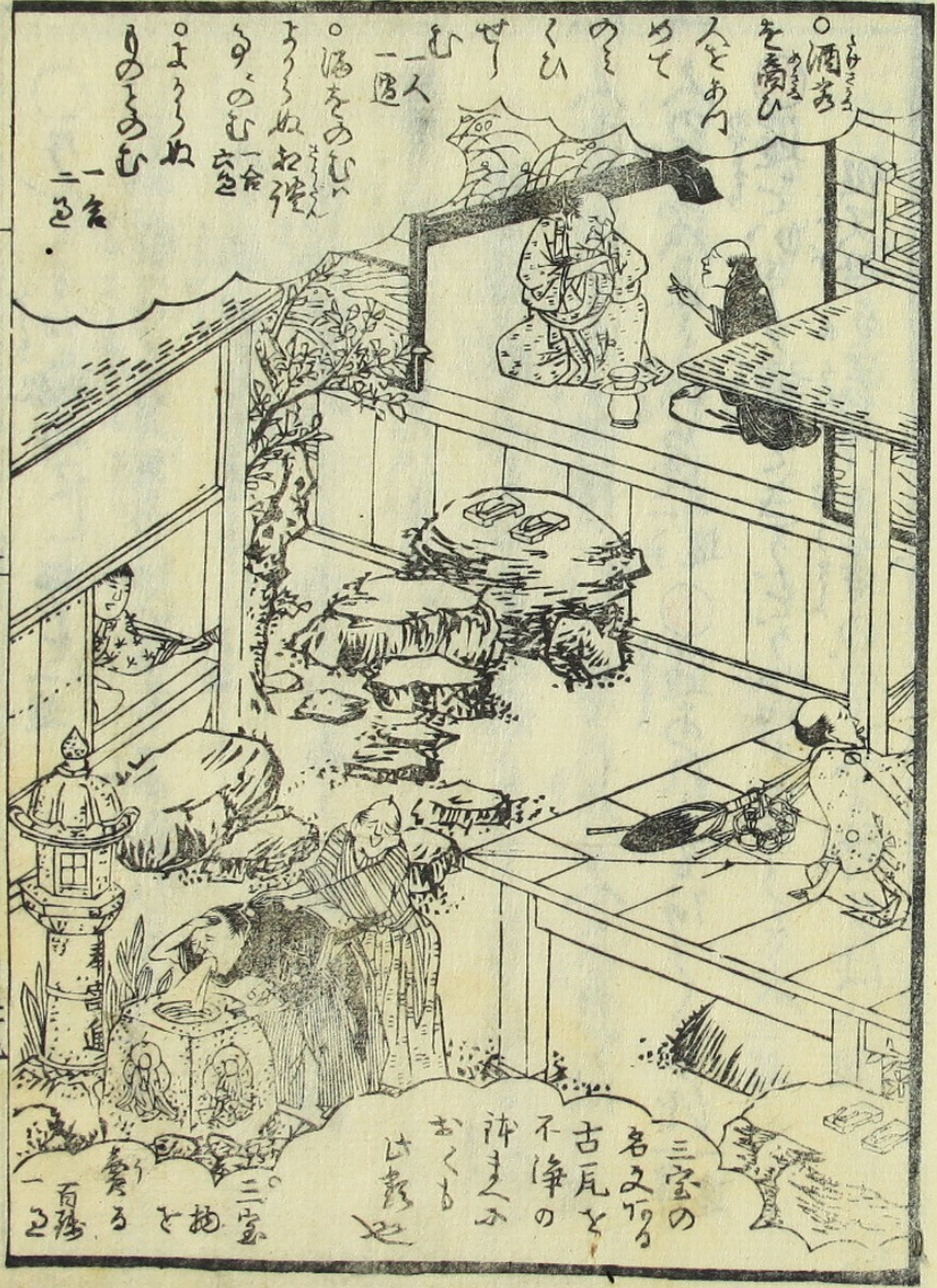
ち（十道）づ（十道）と（十道）も（十道）用（十道）ゆ（十道）れ（十道）ば（十道）百（十道）後（十道）

一人（十道）の（十道）一（十道）言（十道）は（十道）抑（十道）よ（十道）ぶ（十道）訟（十道）詔（十道）め（十道）じ（十道）を（十道）一（十道）言（十道）と（十道）と（十道）一（十道）言（十道）

一人（十道）の（十道）一（十道）言（十道）は（十道）抑（十道）よ（十道）ぶ（十道）訟（十道）詔（十道）め（十道）じ（十道）を（十道）一（十道）言（十道）と（十道）と（十道）一（十道）言（十道）

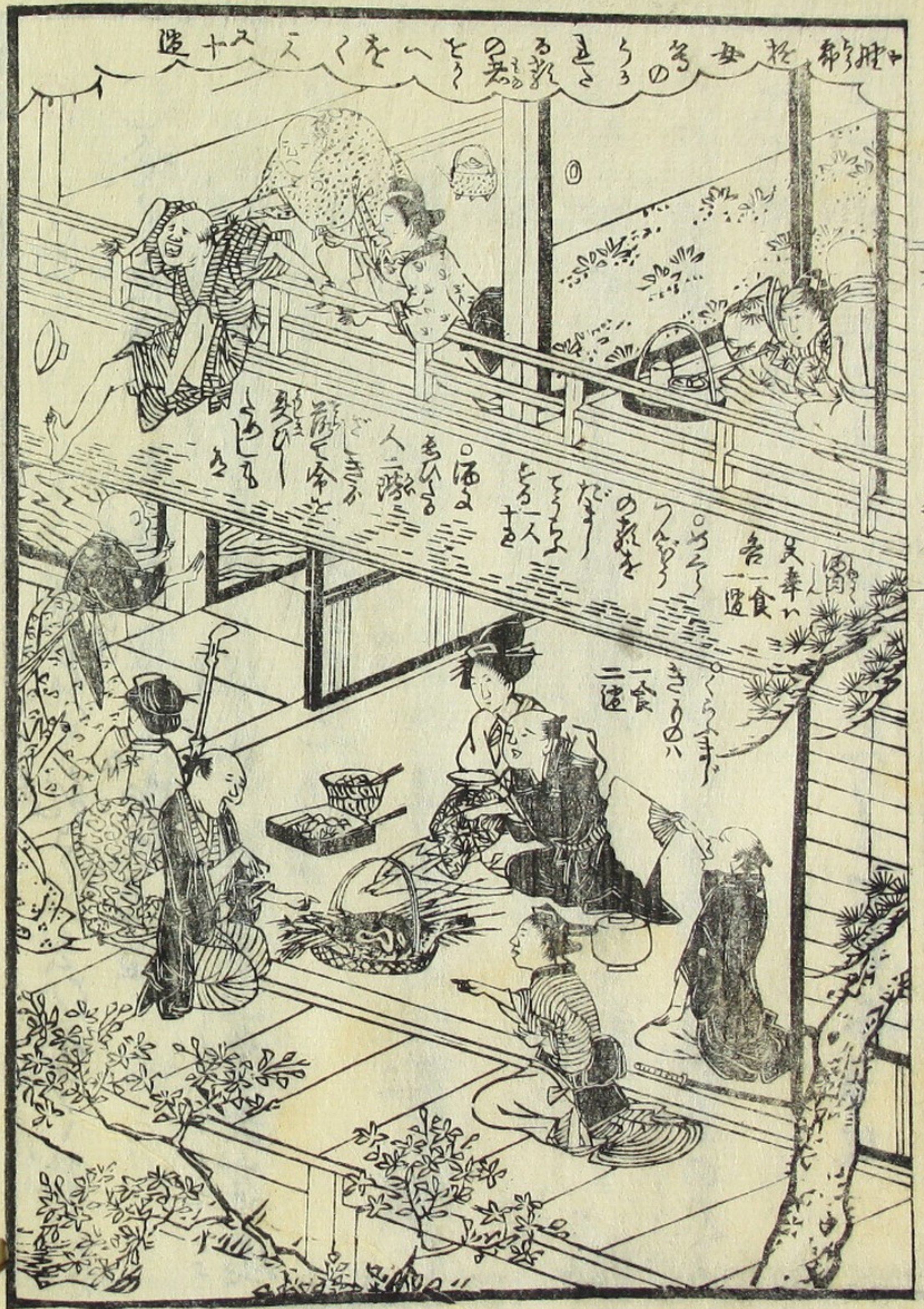
一人（十道）の（十道）一（十道）言（十道）は（十道）抑（十道）よ（十道）ぶ（十道）訟（十道）詔（十道）め（十道）じ（十道）を（十道）一（十道）言（十道）と（十道）と（十道）一（十道）言（十道）

一人（十道）の（十道）一（十道）言（十道）は（十道）抑（十道）よ（十道）ぶ（十道）訟（十道）詔（十道）め（十道）じ（十道）を（十道）一（十道）言（十道）と（十道）と（十道）一（十道）言（十道）



口字力過自口録

三十九



新野十

○人くまに論のじしおと一造

○人の親父兄弟等のいふことを不知らざる 三十造

○人の縁組をさましく 十造

但縁組をさぐるべしとあまけあつて造よりけり

○徳を譲らざる言成出を 十造

但曹操が我を合さむと人我をさむるをさるは法に執る

一人をたぶらざるを毎語 一造 ○それ教よ人の言せば 十造

○人の言成んく終り 一造 ○過あれどもけりくまに 一造

○過とわたり諫をきくべしと人けりけり 二造

但父母より君師道等のけり人の對せば 十造

○おれみおのまがおもくつてつものて人のよれたる簡又付と 一造

○女房を伏せたるをへらひまじりしうぬををさるも

とまじり 一造 ○家来男女とも 一造

○大賢あるに師とせむ 一造 ○勝るは友あるは交り 二造

○うへへく毀らるる 十造

○月人の御方を比して悪口を云 十造 ○日暮 一造 ○下暮 一造

○聖人 百造 ○賢人 百造

一人みをへく不若なるはむ 一造 ○人又不忠不孝等の

大悪とをへく 一造 ○人の不若を見て凍せむ 一造

但其人我よりて受て凍まざるを志す 一造

物ども身のみ限にお慮せざれば罪の著ゆ

○米麦をばじち五穀の天よりれたまひのかる紙をまゝ代物百後

救世抄愛等の道具を賣ひ人よ賣あつて代物百後

一 いろひの衣のものをまゝ久き代物百後

○功あれが母のれがゆに造るまば人よぬり分るも乃一幸

○敬心よ種くのもめくもゆきて罪業罪あれくろ見ざる一幸

○衆のまぐりてごぶるを思ふく衆のよあを十五

りぬりの居居るの地一日

○人の財産をうしひ家のけられもらまはれ我ひと

て換をせんおんまんとせん五十三

○利をけしひひりくのかうごよあふ時我あやま

らを思ひに神佛をうし人をとごむ一幸

○文字ある紙おして何る紙かまりん十字

一 何く根と知りてはく百後

補遺

一 香を供せん地と掃ひ佛と拜せざるふ要堂塔

のよに登る ○伽藍殿堂のよにて魚肉とくらふ十字

○禮物をとりて諸役人よまゝいして人を立身とせし

衆をうろくぬやうに世話なまはりの百後

○日どく人をまぐりせ人と衆よゆひ等の世話

ことばの其の成就せむも又二冊の重難と不_{又百抄}論_{十三}
○自身功過格紙_{三十日}一冊
但物むれどもをこゝろぬい造みありん

自知録下巻 終

附録功過自知録大意

一 一人の世よわは貴も賤も其分に應じ心よ願
望まうべし。若し福ひしうけしべ必しも心を
いよ身と勞し。成就せんこととてしむれん
及びおのひも佛神みいのり。諸天に折言
をす。百日千日多らるのそし。善利生
し。善成積り或は五百或は一千。三千五千乃至
一万にも備せば。禍のぞた福来るていなる。終ひ
のぞとも成就せんとすなり。

成就せざはうらに王が祿がふゆいなるふかり
 け三子の善を祿佛への報恩たるに報いする
 ひく後いよく勵むとくもやくふ三千の教
 を満とて三千の教満とてうべ知識を
 たのむ面白をほとむべ
 一 袁了凡云予雲谷會禪師より受ひくとき
 禪師云天命已より作れべし一切乃禍
 福も己より求むべし若生の定まれる天命も
 今生己が善行より天命忽ち變じ
 悉い禍をあえおひも福をばくふれかり

我身の善の善惡の外別み天命を論ど
 るべし功造格一冊を授けく後素乃
 罪を懺悔し善根を修むるにこそ
 堪惡と第一とよく心を治れことと教
 後人より深く信受し毎日折會教と立
 て三千の善行を修むるに及第の大願
 を成就し又三千の善行を修むるにば我
 實して子孫をさ人相方れども則天啓
 男子出生し一萬の善行を修むるに實城
 縣とて系の善行成就す終り五十三歳の

命厄とありしも七十歳又抑うびてもつゝ
なうも〜ちり。是全く心澄あり〜願心堅固
なり。亦あり。されば功過捨と修飾して。明德と明
ふも。亦人裁百人富貴。裁る家とあり。身を
あ〜天堂も地獄も。秤量し。毫厘も
たごみ。〜。此功過捨とあり。造化の至
とあり。て。福をのぞいた。福をうた。た。〜
津のぶ〜と云

一此功過捨。疾い。う。を。と。ら。る。ら。或。は。又。金。字。と。化
し。銀。字。と。化。と。と。〜。是。等。の。子。を。ま。う。ら。る。

其外靈驗奉てうごん口〜

一一日の中。〜。十余功の。若。し。を。終。ひ。積。ん。ど
亦。月。又。ある。まで。純。心。又。あ。〜。退。屈。なく。此。と
し。終。〜。亦。等。の。功。の。外。又。別。〜。加。え。〜
十。功。と。ある。は。な。〜。是。も。純。心。又。貴。い。精。進
の。一。筋。を。大。功。と。と。終。〜。を。終。〜。は。も。乃
なり。〜。の。終。〜。其。間。又。抑。ひ。〜。一。兩。日。も。悔。し
急。と。終。〜。あ。〜。亦。月。又。つ。〜。り。て。も。別。〜
功。を。あ。〜。は。な。〜。一日。十。功。な。〜。〜。は。亦
月。又。増。を。記。〜。〜。一。月。又。三。百。二。十。功。と

あるふ一ツツして十功二十功れもたつた若
あれは一年又も六千功みもたつた若
それ積むこと其申とて一も道とも悪
めの方をも又嚴重し。微し乃道をも
らばそれとて一若功を記しめはまじ
らふし一と道悪を志ふとては怒と
し

一若積こくは日用れはしめて金銀と
いほいやとゆふまは人妻しと縁の男は乃
目でも好より妻きりなり

一若父母もとちと若を好ししは十
若と人他人は勅むと一若と人若と人我と
えて我を好んど人なる人勅化しは
他人の勅化し易きなり

一凡悪道各道の物なるは其嚴重にして量れ
るべし書を以て受持とふなどの人柄
入べきゆにありはゆし此書は載せ
蓮池大師云功造格の利益も現在の華報
と人どもとるり来世の果報とちりて功徳
とるはぶし

一 本文に百銭を以て一冊として一過としてあり。徂徠先生云。永樂後百文として。今乃後として又百文とあり也。或は素紗絹布毛綿など紙如紙たる代物の由成りて一冊用とす。

二 貴賤僧俗等のまうらひより。苦惡のケ條通用して。むらりのままづらひ。きと怒り。畧之。若しれども。苦門。過門のハ類。本文の次第。み順として。けい。あんで。これを譯といさう。う。ても。私。意。を。添。加。せ。れ。り。た。う。苦。惡。

の腔重。室に玉るの淨定。ゆかり。おろそろ。み。お。り。よ。る。う。い。

功過格。紙受。おとれ。人。毎。日。此。書。を。見。ん。と。日。の。功。過。明。ら。り。に。記。し。て。一。若。し。書。且。淺。く。あ。り。し。ら。ば。例。と。引。て。記。し。て。一。月。乃。廿。日。み。苦。過。と。お。ろ。そ。ろ。多。少。を。見。ん。年。の。終。り。一。冊。用。し。て。知。は。る。い。

格目之圖

和字攻過自知錄

文化十一年甲戌再板

白蓮社藏



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '和字' and '攻過'.

